

看護学科 シラバスの変更一覧

学年	ページ	科目名
1年	44	基礎看護学実習Ⅱ
2年	68	成人看護学実習Ⅰ
3年	95	成人看護学実習Ⅱ

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-BNS-10			
	●	●	●	●	●				
科目名	基礎看護学実習Ⅱ				単位認定者	伊藤 てる子		実習目標到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		80 時間
							授業回数		集中
授業の概要	受持ち患者の看護過程の展開として、適切な情報収集とアセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価・修正の一連のプロセスを通して、科学的看護の思考過程を学ぶ。更にこれらのプロセスを通して「看護とは何か」について自分の考えを深められることを目指す。								
学修者への期待等	学内で学んだ看護学原論、看護倫理、臨床看護総論、基礎看護技術Ⅰ～Ⅳ、看護過程論および基礎看護学実習Ⅰでの学びを振り返り、積極的な姿勢で実習に臨むことを期待する。								
授業計画									
<p>I. 実習期間 1年次後期 2週間（令和3年2月4日～2月19日）</p> <p>II. 実習施設 東北医科薬科大学病院・仙台市立病院・仙台赤十字病院・宮城県立がんセンター・JR仙台病院・イムス明理会仙台総合病院</p> <p>III. 実習目的 1. 受持ち患者の日常生活に関する看護上の問題を把握し、看護過程の展開方法を学ぶ。 2. 看護職を目指す学生として、基本的な実習態度を身につける。</p> <p>IV. 実習目標 1. 受持ち患者の情報を把握して、アセスメントができる。 2. 受持ち患者の看護計画が立案できる。 3. 受持ち患者の看護計画に沿って、援助を実施できる。 4. 看護過程の重要性を理解できる。 5. 看護学生として責任ある態度で行動できる。</p> <p>V. 実習計画 1. 学内実習 1) オリエンテーションで実習の全体を把握し、事前学修を十分して実習に臨む。 2. 病院実習 1) 患者1名を受持ち、看護過程の展開を行う。 2) 看護過程の展開を通して、適切な援助方法を学ぶ。 3) 毎日のカンファレンスを通して、学修内容の共有と整理・理解を深める。 3. 実習のまとめ 1) 実習で学んだことをまとめ、振り返りを通して「看護」について自分の考えを深められる。</p>									
教科書	特に指定しない								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項参照 担当：専任教員：伊藤てる子、桑田恵美子、菅原尚美、佐藤由記子、竹田理恵、佐藤清湖、武田美奈子、阿部幹佳、須藤千寿美、伊藤茉莉子、黒木雅美、山本和江、岡崎草代夏、坂村佐知、佐藤理恵、小倉真紀 非常勤講師：松田郷子、中野千加子、青木千佳 詳細は後日配布する実習要項参照</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-04			
	●	●	●	●	●				
科目名	成人看護学実習 I				単位認定者	阿部 春美		実習目標達成度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	3 単位	評価の方法	
					授業形態	実習	授業時間数		120 時間
							授業回数		集中
授業の概要	慢性的な健康問題を持つ成人の特徴を考慮し、患者を総合的に理解できること、また、患者・家族との人間関係に基づき、看護の問題を明らかにし、看護計画の立案・実施・評価ができることを目指す。								
学修者への期待等	基礎看護学・成人看護学概論・成人看護学援助論 I で積み重ねた学修を振り返り、実習の目的を意識しながら臨床実習に臨むこと。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：2020年8月17日（月）～9月18日（金）</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院・イムス明理会仙台総合病院・仙台厚生病院・仙台市立病院・東北医科薬科大学病院 宮城県立がんセンター</p> <p>III. 実習目的 健康問題や治療によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対し、成人看護学での既習内容を統合した看護実践能力を養う。</p> <p>IV. 実習目標： 1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる 2. 看護過程に基づいた看護実践ができる 3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる 4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる</p> <p>V. 実習計画： 実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。 1. 学内実習 1) 成人看護学実習 I オリエンテーション 2) 成人期患者の看護過程の展開と、慢性疾患患者に必要な日常生活援助技術や診療援助技術について、グループワーク演習、全体発表、ビデオ学修、文献学修で学ぶ。 2. 病棟実習 1) 学生1名で成人期患者1名を受け持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護について学ぶ。 2) 受け持ち患者の看護の方向性を把握し、適切な看護援助方法を提供し、実施した援助を評価するためにカンファレンスを実施する。 3) 実習終了後に受け持ち患者に実施した看護援助のプロセスを振り返り、理論的にまとめて発表することにより学生間で学びを共有し、成人期看護援助について考えを深める。</p>									
教科書	「看護データブック」新井治子編、医学書院 「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	<p>詳細は後日配布する実習要項を参照</p> <p>担当者 専任教員：阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、小倉真紀 伊藤てる子、菅原尚美、佐藤由記子、二口尚美、東海林美幸、岡崎草代夏、坂村佐知 非常勤講師：松田郷子、大石慶子、畑中晶子、高橋静子、青木千佳</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

看護師の臨床経験を持つ教員が担当します。慢性的な健康問題を持つ成人の特徴を考慮し、健康障害をもつ人と療養生活を支える人たちに真摯に向き合い、健康とは何か、看護とは何か、さまざまな角度から考える。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	NS-2-FNS-05			
	●	●	●	●	●				
科目名	成人看護学実習Ⅱ				単位認定者	阿部 春美		実習目標到達度	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	看護学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	3 単位	評価の方法	
				授業形態	実習	授業時間数	120 時間		
						授業回数	集中		
授業の概要	<p>「成人看護学概論」「成人看護学援助論Ⅰ」「成人看護学援助論Ⅱ」で学習した看護理論、援助方法を臨地実習場面において体験し、看護の実践に必要な知識・技術・態度を統合的に修得する。手術又は急性期にあるため、ストレス・危機状態にある成人患者・家族を多面的に理解し、看護師と患者の人間関係を基盤に、問題解決の系統的アプローチを通して、心身の侵襲に伴う変化への対応と心身の回復・社会生活への適応が図れるように看護を実践する能力を養う。</p>								
学修者への期待等	既修学修科目で積み重ねた学修を振り返り、目的・目標を意識しながら実習に臨むこと。								
授業計画									
<p>I. 実習期間：2020年4月、5月11日（月）～11月6日（金）</p> <p>II. 実習施設：JCHO仙台病院、イムス明理会仙台総合病院、仙台市立病院、仙台赤十字病院、東北医科薬科大学病院、東北大学病院</p> <p>III. 実習目的：健康問題や治療によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対し、成人看護学での既修内容を統合した看護実践能力を育成する。</p> <p>IV. 実習目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象の看護過程が展開できる。</li> <li>2. 看護過程に基づいた看護実践ができる。</li> <li>3. 医療チームの一員としての役割を理解し行動できる。</li> <li>4. 看護職を目指す学生としての責任を認識した行動ができる。</li> </ol> <p>※主に外科的治療を受ける患者、身体侵襲が大きい検査等を受ける患者、慢性疾患の急性増悪の患者、呼吸循環状態が変化しやすい患者の看護について学修する。</p> <p>V. 実習計画： 実習スケジュールは、学内実習および病棟実習の計3週間で構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)成人看護学実習Ⅱオリエンテーション</li> <li>2)該当診療科の看護過程展開を通して、患者の観察・アセスメント、必要な日常生活援助技術・診療援助技術について、技術演習、文献学修等で学ぶ。</li> </ol> </li> <li>2. 病棟実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)学生1名で患者1名を受持ち、看護過程を展開しながら受け持ち患者の看護を実践する。</li> <li>2)実習目標到達に向けて、受け持ち患者の看護の方向性を把握し実施した援助を振り返るために、テーマを決めてカンファレンスを実施する。</li> <li>3)受け持ち患者だけではなく、チームメンバーの受け持ち患者についても情報を共有しながら学びを深める。</li> </ol> </li> </ol>									
教科書	「看護データブック」新井治子編、医学書院 「看護学テキストNiCE 成人看護学 成人看護技術」野崎真奈美他編、南江堂								
参考文献	オリエンテーションおよび実習中に適宜提示する								
備考	詳細は後日配布する実習要項を参照 担当者 専任教員：阿部春美、岡崎優子、伊藤茉莉子、遠藤美穂子、小倉真紀 非常勤講師：松田郷子、大石慶子、青木千佳								

※以下は該当者のみ記載する。

#### 実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

成人領域の臨床経験のある教員が実習を担当します。手術または急性期にある成人とその家族の特徴を理解し、個別状況に応じた健康回復に必要な看護活動を学修する。